人 62 今年から人権の番人に

笠原文雄さん
木場八割・六十五歳

「人権」は水や空気みたいなもの、と言われている。ふだんは当たり前のこととして享受しているもの、それが損われたときに、その大事さに気付くものだからだ。

戦後の日本国憲法の柱の一つが人権の尊重ということだった。憲法第一二条には「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」とある。逆に言えば、努力なしには人権は守られないということだ。

人権を守るための制度はいろいろあるが、人権擁護委員もその一つ。昭和二十四年に発足した民間人による人権の番人の機関である。自由人権思想の啓蒙・宣伝活動のほか、一般の人からの人権に関する相談を受けることも大切な仕事だ。

黒埼町には、現在、三人の人権擁護委員がいる。本多敏麿さん（金巻、☎377－2191）赤沼教正さん（鳥原、☎377－2843）笠原文雄さん（木場、☎377－3447）の三人だ。

三人のうち、笠原さんはこの四月、法務大臣から新しく人権擁護委員に委嘱された。そこで、笠原さんにお話をうかがってみた。

――笠原さんの年代ですと、学校教育で日本国憲法を習うという機会はなかったと思いますが。

「今の憲法ができるとき、新聞にもよく出たし、私たちも関心をもって読んだものです。敗戦まで兵隊にとられてたんですが、戦争に負けたことの精神的な打撃が大きかったですからね、平和国家・文化国家というのはとても魅力的だった。だから、新しい憲法ができたときは、これしか生きる道はないと思ったものです。条文を詳しく読んだことはないですが、今の憲法の精神というものはつかんでいると思っています」

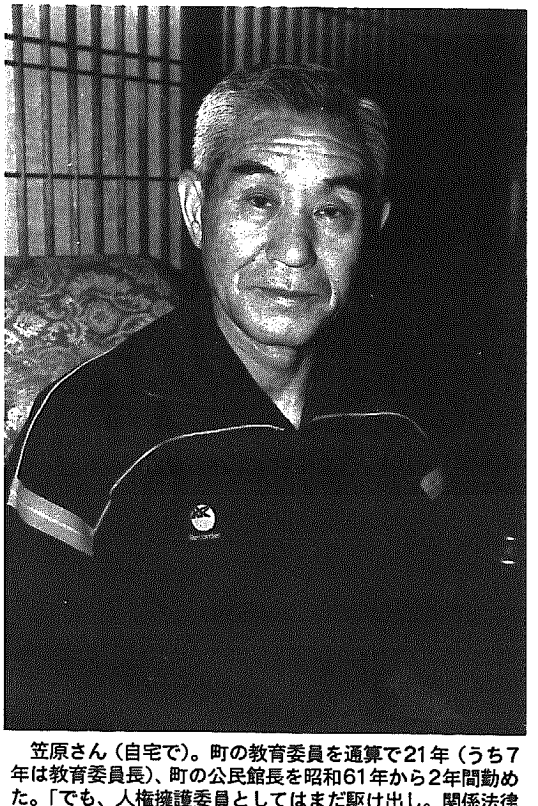
――人権をめぐる現在の状況を、どうお考えですか。

「人権の大事さは皆さん、わかってらっしゃると思うのですが、自由ということはきちがえないでほしいと思います。自分だけでなく相手の自由も尊重することが必要なんです」

――委員としての抱負を。

「たいしたことはできないけれど、平和な生活、仲のよい地域にしていくことを手助けできればと、思っています」

▼うわさ・差別・いやがらせ・いじめ・公害・名誉棄損、離婚問題などの相談ごとに、人権擁護委員は自宅で応じています。前出の委員のかたにお気軽にご相談を。相談は無料で、秘密は守られます。



笠原さん（自宅で）。町の教育委員を通算で21年（うち7年は教育委員長）、町の公民館長を昭和61年から2年間勤めた。「でも、人権擁護委員としてはまだ駆け出し。関係法律などをもっと勉強しないと」

ほんの一冊

ヘビの世界

（平凡社カラー新書）

今年の干支は？そう、ヘビ年ですね。ヘビ年も半ば近くになってヘビの本を紹介するというのも間が抜けているようですが、しかし、干支というもの、正月前後にこそもてはやされるものの、年も半ばになると忘れられてしまうようなので一冊ご紹介。ヘビというのはご婦人がたになぜか評判がよくない。確かに毒を持ったヘビ（マムシとかハブとか）もいるけれど、写真ていどでキャーキャー騒ぐのはいかがなものか。まずはヘビだなどということを忘れて、無心に写真をながめていただきたい。宝石のような真ん丸に眼玉の無邪気でかわいいこと。人間の目よりずっと美しいと思いませんか。ぜひぜひ、この本でヘビの美しさ、生活の優秀さに触れてみてください。

〈人の動き〉

4月末日現在	（前月比）	〔前年同月比〕
人口	23,143（＋40）	〔＋198〕
男	11,345（＋16）	〔＋60〕
女	11,798（＋24）	〔＋138〕
世帯	6,138（＋22）	〔＋83〕

4月1日～末日

出生	23	転入	127
婚姻	16	転出	102
死亡	9		

いま、まちに必要なものは1億円ではない。まちを考える住民がほしいのだ。財政が豊かだからいいまちとは限らない。いい住民がいるまちがいいまちである。いい住民とは、選挙と税金について考えている人である。1億円は元々私たちの税金である。▼広報紙はこう決まりましたという事後報告の記事が多い。1億円の使い方については、本文のとおりまだ何も決まっていない。記事は少々そっ気なく、まとまりにも欠けているかもしれないが考える材料にしてもらえば幸いだ。▼1億円への関心が、税金や自治、地域への関心の高まりにつながることを願う。もっと考えて行動しないと損するのは私たちだ。

新潟のまちづくりを考えようと「新潟仕掛人会議」が発足した。村起こしで有名な安塚町の矢野町長、創庫美術館の清水館長ら県内のまちを思う人々が集まっている。6月17日(土)に「互恵都市、新潟」と題し総会を開く。▼講演は「和の実学」を唱き「互恵社会づくり」の研究者大和信春先生。また、新潟で福祉や国際交流などで尽くされた3人の女性を招いて話を聞く。どなたでも参加できる。時間は昼12時30分から、場所は新潟港の水産物揚場（佐渡汽船近く）である。詳しくは役場企画開発課・五十嵐まで。▼ところで、仕掛人ではなく仕置人が今の世の中必要です。と友人の便り。同感である。▼久々の後記Ｉｇ

●来月号の表紙

西バイパスの開通、自動車試験場の移転、信濃川、中の口川の堤防工事など町を取り巻く状況は大きく変わりつつあります。来月号では**変わる黒埼町**と題し、変化の様子を探っていきます。8月号以降は**下水道、観光**などを取り上げる予定です。どうぞご意見をお寄せください。電話で役場広報係へ。

平成元年六月一日発行（毎月一日発行）三〇九号　発行／黒埼町役場　〒九五〇－一一　新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三－一　電話／〇二五－三七七－三一〇一　編集／企画開発課（担当・広報統計係）　印刷／㈱博進堂　定価一部四五円